
Cross The Chaos World

アガルタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C r o s s T h e C h a o s W o r l d

【Nコード】

N 4 0 1 1 M

【作者名】

アガルタ

【あらすじ】

これは、幼い頃に両親を亡くし、生きる事の喜びを知らないまま孤児院で生きてきた少年と、少年の生きる世界とはまた別の世界で生きる少女の長く険しい旅のお話である……。

開幕

これは、幼い頃に両親を亡くし、生きる事の喜びを知らないまま孤児院で生きてきた少年と、少年の生きる世界とはまた別の世界で生きる少女の長く険しい旅のお話である……。

＋＋＋＋＋

どうも

新参者のアガルタです（笑）

一応この小説は他の小説とコラボする予定（あくまでも予定）ですのでよろしくお願いします。

尚、執筆速度は気分によってまちまちですのであしからず（オイ

稚拙な文面になると思いますが、ごゆっくりお楽しみください。

始まりは雨の日...

・ザアアアー

空から落ちてくる雨が痛い程に俺の身体を打ち付ける。

口の中は血でにじんでいるのか鉄の味がする。

（何やってるんだろぅな俺……）

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

俺の名前は響音^{ひびきねぐさ}狗狼、歳は11歳、男、好きなものは……特にないな、嫌いなものは……これも特にない。

俺は産まれたばかりの頃に両親が死んでしまったらしい、親戚もいなかったため孤児院に入ることになったらしい。

これは、孤児院の院長から聞いた話しに過ぎない……

俺からしてみれば両親の顔なんて知らないし、物心ついた時には孤児院暮らしだったしな。

孤児院はそれなりに大きく俺と同じくらいの歳の子供も居たが俺は常に独り部屋の隅に座っている毎日だった。

理由？

さあな……

俺には誰も近寄ろうとしなかったし、そんなことどうでもよかったから考えたことすらないよ。

とりあえず話を現在に戻そう……

+++++

始まりは雨の日…… 2

今日は朝からまるで台風かと思うような土砂降りの雨だった。

俺は学校に向かう為にその雨の中を歩いていたんだ、他の孤児達は俺よりも数十分前には孤児院を出ていて辺りを見回しても人の影すらない。

辺りに人が居ないのは孤児院が建っている場所も影響しているのだろう、孤児院は町から離れた山の中にひっそりと建っている。

俺はその山の中を土砂降りの雨の中、町に向け歩いていったんだ。

余談だが……土砂降りの雨の時に山で起きる災害が何だか分かるか？

川の近くなら鉄砲水とかもあるだろうけど今回起こった災害は《土砂崩れ》だった。

その土砂崩れに俺は巻き込まれ……崖下に落ちたんだ……

幸いまだ死んでないようだが……正直、このまま死んでしまってもいいと思ってる自分も居るんだ。

この世界に未練がないからね……

そして俺は意識を手放した

世界を繋ぐ漆黒の球

少年が意識を手放すと同時に、ふと小さな空間の揺らぎが生まれた……

揺らぎは次第に大きくなり突如揺らぎの中心に漆黒の球体が出現した。

そして、球体そのものに引力が有るかのように土砂や瓦礫、少年の身体諸ともその漆黒の中心へ引きずり込んでいった……。

球体はしばらく辺りのあらゆる物を取り込み尽くし……何事も無かったかの様に……現れた時と同じ様にふと消え去ったのであった……。

- - 同時刻、異世界 - -

王都

- キンツ -

- キャツン -

- カンツ -

- カッ -
- カンッ -

- ギリッ -

普通の民家にしては大きく、広い庭のある立派な家の裏手で激しい金属音が鳴り響いていた。

金属音の発生源はこの家の主とその娘が振るう剣から発せられていた。

- ガキンッ -

ひととき大きく響いた金属音と共に少女の持っていた大剣が宙を舞った。

「あっ……参りました」

少女はそう言つと飛ばされた大剣に走り寄つていった。

異世界の住人

この少女の名前はセシリア、10歳になったばかりで誕生日プレゼントに王国騎士団団長である父親アレックスから贈られた大剣で試合をしていたのであった。

髪は綺麗に切り揃えられた茶色がかったオレンジ髪ねセミロングで太陽の光りでキラキラと輝いている。

「父上！もう一度御手合わせお願い致します！」

どうやら元気を取り柄の様である。

「うむ、良からう、何時でもかかってくると「だんちよ〜〜！」」「アレックスが試合を行おうと構えた時、セシリアとアレックスの間に間延びした叫び声が響いた。

「セシリー少し待っていなさい」

「はい！」

「ジーク何か用かね？」

二人の間に割り込んできたのは王国騎士団副団長のジークという男だった。

「だんちよ〜〜！一大事ツス！」

「……何かあったのか？」

「それが……」

××××××××××

「何！？世界各地に魔物が大量出現だ！？」

「そうなんツスよぉー！」

「状況はどうなっているんだ？」

「何百という王国騎士団出動要請で大混乱ツス！」

「ふむ……魔物の大量出現……この状況は過去に一度……」

「やっぱりアレックスかぁ……」

「「魔王の復活」」

「魔王の復活……ですか？」

「あっ！セシリアちゃんオハヨッス！」

「ジークさんおはようございます、それで魔王の復活というのは？」

「魔王の復活と言つのは……」

××××××××××

今より20年ほど前のこと、自らを魔王と名乗る莫大な魔力を持った者が現れた。

その者は動物、植物問わず凶悪な魔力を注ぎ込み魔物を創り世界にばらまいた。

その者が死んで尚魔物達は主の命に従い破壊活動を行なっているのである……。

××××××××××

「そして今まさに数を減らしつつあった魔物達が魔王が居た頃のように増えてきているのだ」

「だから僕達は魔王が復活したんじゃないかって思ってるんツスよ」

「そ、そんな……!？」

「すまないがセシリー私は暫くは家に帰れないだろう……」

「……………はい」

「時間がない、母さんに今私達が話していたことを伝えておいてくれ!」

「……………はい」

「心配は要らん、必ず帰ってくると約束しよう」

「……………」

「セシリー……お前はもう立派な騎士だ、母さんを守ってくれ！」

「っ！」

「わかったな？」

「はい！……！」

「だんちよ……！速くして欲しいッス！」

「わかった、すぐ行く！……セシリー、暫くの間留守にする、家の事は任せた！」

「はい！行つてらっしゃいませ、父上！」

こうして物語の歯車が少しずつ交わりだした……。

異世界の住人（後書き）

つと、言うことで序章完結です！

次からは他の作品と交わっていくのであしからず（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4011m/>

Cross The Chaos World

2010年10月20日13時53分発行